

水稲・大豆の生育と管理

平成30年6月号

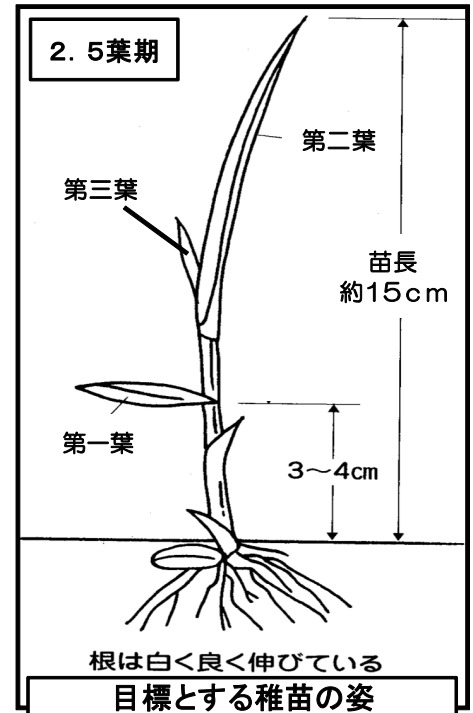
北部振興局集落営農・水田班

水稲は健全な苗を育てましょう！

◎なぜ健全苗がいいのか？

- ・健全な苗とは茎が**太い**・葉色が**濃い**・草丈が**短い**状態の苗です。
- ・太くて草丈の短い苗は、移植時のダメージに耐えられ移植後速やかに活着（発根性が良い）することができます。
- ・また、初期生育がよく穂数の早期確保が容易になります。
- ・温度と水管理は以下を参考に、すんぐりした健康な苗を育てましょう。

※被覆材は早めに取り除き（苗長：3～4cm頃）、じっくり苗を生長させます。



◎温度管理と水管理が重要！

【温度管理】

1. 出芽期（適温 30～32℃）

緑化開始まで（幼芽長5～10mm）
高温では出芽不良、病害虫発生
低温では出芽遅延、かび・障害発生

2. 緑化期（適温 22～25℃）

光を当て、葉緑素を作る（苗長3～4cm）

3. 硬化期（12℃以下にしない）

硬化開始から移植5～6日前までの期間で
温度を徐々に下げ外気温に慣れさせる。
この期間で目標の葉齢、苗長まで育てる。

【水管理】

灌水は午前と午後の2回が基本！

①午前中（10時頃）の気温上昇時に
たっぷり灌水



②午後（13時～14時頃）は床土の
表面が乾いていたら灌水
※夕方の灌水はひかえましょう。

控えめな灌水を心がけましょう！

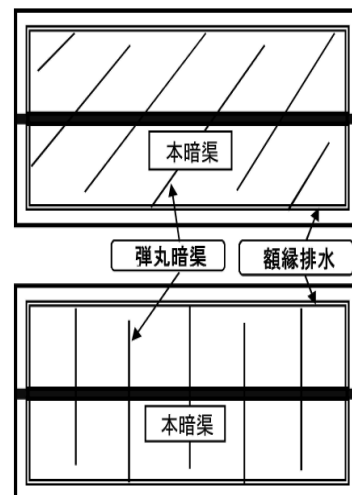
過剰な灌水は根張りを悪くし、
軟弱で徒長した苗になります。

大豆は播種前の準備で収量増をめざそう！！

◎排水対策をしましょう！

大豆は出芽期から生育初期にかけて湿害に非常に弱く、梅雨期の降水量の増加は単収の減少に繋がります。排水対策のポイントは**本暗渠・額縁明渠・弾丸暗渠**の3つ！

排水対策の施工例



◎適切な土作りを！

土壌の酸性化は単収低下の原因になります。土壌診断で土壌の状態を確認し、適量の資材を投入することで、過剰投資を防ぐことができます。

○適切なpHについて

大豆に最適なpHは、**pH6.0～6.5**程度です。土壌診断により圃場のpHを確認し、石灰質資材でpHを調整しましょう。

粘質～壤質土壌の各資材施用量（目標：pH6.2）

石灰資材	土壌のpH		
	< 4.5	< 5.0	< 5.5
苦土石灰	240	140	70
オイスターミネラル	300	180	80
ミネラルG	300	180	80
ようりん	270	160	70

*石灰質資材を算出による投入量が300kg/10a以上になった場合は、数年に分けて施用。

○肥料について

大豆の施肥は、出芽後の初期生育を確保し、根粒菌が活動を始めるまでのスターターとして使用します。やせた圃場や連作田では必ず施肥しましょう。

大豆の施肥基準

圃場の種類	成分量 (kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
転換初年度・肥沃田	0	10	10
連作田・やせ地	3	10	10

◎播種直前耕起の徹底！

耕起後に降雨があると土が水を含み、圃場が乾きにくく播種適期を逃します。播種直前に耕起を行うことで、速やかに播種作業に入ることができます。適期播種のために、播種直前に耕起しましょう。